

事業報告書（令和 7 年度）

事業名 ①第 2 2 期国際塾 ②「ESD Café URA 2025」

団体名 NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山 担当者名 難波 徳行

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）
<p>① 第 2 期国際塾</p> <ul style="list-style-type: none">・ 5 月 18 日～12 月 6 日の間 計 18 回（特別講座 2 回、合宿講座 6 回を含む）の講座を実施した。 ★カリキュラム第 10 回～一輪の綿花から始まる倉敷物語～は、雨天のため中止した。・ 入塾生 22 校 42 名 <p>★カリキュラム、講師、場所の詳細は、添付「CIRCULAR」を参照願います。</p> <p>② ESD Café URA 2025</p> <ul style="list-style-type: none">・ 12 月 14 日、ノートルダム清心女子大学トリニティーホールにおいて開催した。・ 参加者 中・高校生 55 名、アドバイザー、引率教員、世話人等 25 名、合計 80 名。SDGs の目標別にグループを編成。「SDGs と私～今、私たちにできること、提案したいこと」をテーマに議論し、結果を全体会議で発表した。★各グループには、その分野に造詣の深い社会人をアドバイザーとして配置した。
2. ESD の視点
<p>① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</p> <ul style="list-style-type: none">・ 視野が広がった。・ SDGs の重要性を改めて認識できた。アドバイザーの話から企業や諸団体の取り組みの実例を知ることができた。・ SDGs の諸課題を自分ごととして、とらえることができた。 <p>達成に向けて、自分なりに貢献できることが無数にあることや他との協働（パートナーシップ）の重要性を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 岡山ユネスコ協会主催のイベント「平和の鐘を鳴らそう」への塾生たちの参加が年を追って増えている。
<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <p>① 国際塾</p> <ul style="list-style-type: none">・ 每期、カリキュラムに SDGs 関連テーマを取り入れている。 <p>例：第 5 回「外国人とともに暮らす社会へⅢ～困っていることはありますか？」</p> <p>→SDGs N010, 11</p> <p>第 7 回「競争から共創へ～地球社会のための地球人の人材育成～」</p> <p>→SDGs N09, 10, 13, 14, 15, 16, 17</p>

第8回「ユネスコ文学創造都市おかやま～文学による心豊かなまちづくりを目指して～」

→SDGs N011

- ・第5回「外国人とともに暮らす社会へⅢ～困っていることはありますか？」では、基調講演の後、講師やアドバイザー、ゲスト（在住外国人）を交えてグループセッションを行っている。
- ・講義終了後、茶話会を開催している。講師を囲んで、懇談する中で質疑応答も可能で、講義内容の理解が一段と深まる。
- ・毎回の講義につき、塾生がレポートを提出。これに塾長がコメントを付して返却している。（塾長との対話の機会にもなっている）

② ESD Café

- ・参加者をSDGsの目標ごとにグループ編成その中で、目標達成に向けて「今できることや関係先への提案」を議論した。
- ・各グループには、その分野に造詣の深い社会人をアドバイザーとして配置。適宜、当該企業や団体における取り組みの実例なども披露してもらっている。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

ESD Caféでは、テーマを次の2点に絞って議論、全体会議で発表した。

① 「今、私たちにできること」

効果：ちょっとした心がけで自分たちにできることは、無数にあることを確認できた。

② 「提案したいこと」

効果：各グループでそれぞれに提案がなされた。

例、公園や観光地のゴミ箱のデザインを工夫（親しみやすく、見た目もきれい）すべき。

★掏すべきアイデアについては、事務局において関係方面（企業や行政）に提案する。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

両事業を通じて、若者たちは

- ・視野が広がり、SDGsの大切さを学んだ。
- ・SDGs達成のためには、なによりも実践（小さなことであっても）が大切であること、特にパートナーシップの構築が、より効果的（重要）であることを学んだ。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・SDGsは、いずれの目標も一朝一夕で達成できるものではない。世代を超えて継続して取り組むべきものばかりである。次の社会は、彼らが担う。彼らがどこで何を職業にしようとも、SDGsの発想や手法をもとに強いリーダーシップを発揮してくれることを信じている。

・当フォーラムは、2025年11月に創立30周年を迎えた。これを機に国際塾卒塾生（累計で700名を超えた）のデータベース構築に着手した。

意図する点は、以下の2点である。

- ① 人の成長には、限りがない。彼らとの接触の機会を増やし、成長の軌跡をトレースする（見える化する）。

これにより、当フォーラムの活動の何が彼らの成長に寄与したのか、改善すべき点はどこか等を分析、今後の活動に活かしてまいりたい。

★まず、卒塾生との接触・現状把握をこころみるべく、30周年記念行事への参加を呼び掛けた。とりあえず入塾時の住所宛てに案内チラシを発送。399名の住所を再確認。記念誌を発送した。記念行事（講演会・懇親会）には、現・卒塾生計21名が参加した。

- ② 卒塾生の組織化を図る。

とりあえず「国際塾 卒塾生ネットワーク」を立ち上げた。今後、これにより卒塾生同士の交流や現役生の支援、地域社会への貢献（SDGsも含めて）を実現したい。

2025 年度活動風景 添付資料①

<ESD Café URA 2025> 2025 年 12 月 14 日 於：ノートルダム清心女子大学

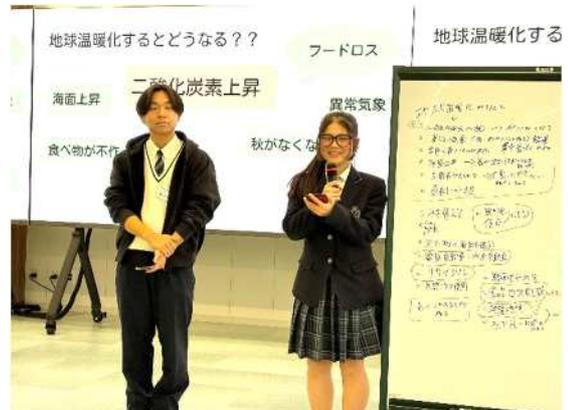
イ・会場風景・グループに分かれてディスカッション



ロ・討議内容を白板に書く



ハ・発表



ニ・集合写真



2025 年度活動風景 添付資料② <第 22 期 国際塾>

- ・ 5 月 18 日入塾式 杉山塾長あいさつ
於：ノートルダム清心女子大学トリニティーホール



- ・ 7 月 23 日 イタリア、フェルガモ市ファルコーネ高校生との交流 於：後楽館高校



- ・ 11 月 24 日 第 11 回 年度課題の発表(グループごとに英語で発表)・塾長講評風景
於：ノートルダム清心女子大トリニティーホール



- ・ 11 月 24 日 卒塾式を終わって集合写真 於：ノートルダム清心女子大トリニティーホール

